



令和5年4月26日

広島大学文書館が 新たな所蔵資料目録と証言集を刊行しました

情報提供

広島大学文書館では、本学の著名な教職員や卒業生の資料を収集しています。今回、久保亘氏（広島文理科大学卒業生、元大蔵大臣）が旧蔵していた久保亘関係文書の目録を令和5年3月31日に刊行し、一般公開を開始しました。

また、広島大学75年史編纂事業の一環として、卒業生の聞き取り調査（オーラル・ヒストリー）を行っています。今回、文学部の卒業生である今中亘氏（元中国新聞社社長）の証言集を令和5年2月28日に刊行しました。

資料目録と証言集の概要は以下の通りです。

【久保亘氏資料】

久保亘氏は、広島文理科大学の卒業生で、旧日本社会党の参議院議員として活躍し、第一次橋本内閣で大蔵大臣兼副総理を務めました。広島大学文書館は平成18年に、同じく社会党の参議院議員で労働大臣を務めた浜本万三氏のオーラル・ヒストリーを実施しました。その際、浜本氏から久保氏の弟で大蔵大臣時代に私設秘書を務めた久保忠氏をご紹介いただき、久保忠氏を通して蔵書や関係資料を文書館に寄贈していただきました。久保氏の資料は、昭和末期から平成初期の政治史を研究する上で極めて重要な資料になると評価できます。

なお、個人に関する情報や法人等または個人の権利、競争上の地位その他正当な利益を害する恐れのある情報が含まれる資料については、非公開期間を設けています。

【広島大学文書館オーラル・ヒストリー叢書第2集 今中亘オーラル・ヒストリー】

昨年発行した第1集では、学生生活を中心に14人の方の証言をまとめました。今回の第2集は、今中亘氏が著名な卒業生であることを鑑み、同氏の生い立ちから現在に至るまでの経験を1冊の証言集としてまとめました。今中氏は広島大学を卒業後、中国新聞社に入社され、暴力団の第2次広島抗争の報道（昭和39年菊池寛賞受賞：中国新聞の暴力団追放キャンペーン）にあたり、中心的な役割を果たされました。証言集では、こうした暴力団取材の経験の他、スリーマイル島原発事故の取材、被爆50年の周年報道、地方新聞社の経営実態等の証言を収録しており、メディア史や広島県の戦後史にとって貴重な記録になっています。

【お問い合わせ先】

広島大学文書館（担当：伊東）・75年史編纂室（担当：石田）
Tel : 082-424-6050 FAX : 082-424-6049
E-mail : bunsyokan@office.hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4版 1枚（本票含む）

